

ここが聞きたい!!

議員本人の原稿を尊重しています。

一般質問

荒井 範明 議員



問

中心市街地再生のために

答

統一意思には協力する

問

中心市街地は、空き地と空き店舗のシャッターの多さが目立ちます。過去の経緯を教訓として、再生に取り組むべきです。小さくとも成功事例を積み重ねるべきです。商業者が要望する、福祉センターを中心にしたフリーの駐車場設置から始めませんか。

答

過去に、三者で計画を立てましたが、うまく進みませんでした。再生には、交流人口・滞留人口も大事で、図書館等も整備しました。

全国商店街サミットでも、商店街自身が変わる



問

水道事業の課題は

答

必要最小限の整備で

問

自治体に共通する使命の大きな一つは、将来的な危機に

いかに対応し、

持続可能な経営を行っていくかです。

水道事業の

現状認識と、今後の課題解決は。

答

当初は、3000^mの給水が、現在は、9800

^mです。

浄水場は37年経っており、経費を削減しながら必要最小限の整備で維持しています。水質は、薬品処理と水処理時間の延長で対応しています。

経済部技監

耐用年数

が経過した石綿管は1961^m残っています。

問 ゴミ焼却施設の課題

答 重要課題は3町協議で

答

当初は、8時間燃焼で25^t処理でしたが、現在は、最長13時間燃焼で32^t処理。劣化は認識しており、定期点検と計画的修繕での対応です。

重要課題の際は、3町協議が必要です。

問

ゴミ焼却施設は平成5年から稼働し、3町で共同利用しています。現在、燃料室は当初の

ここが聞きたい!!

議員本人の原稿を尊重しています。

一般質問

高橋眞千子 議員



問

児童・高齢者に対する虐待の対策は

答

相談窓口の充実と実態把握に努める

問

複雑多様化する社会情勢の中で、子どもや高齢者への虐待は、全国的に年々増加しており、大きな社会問題となっています。

児童虐待は、親や養育者などが、子どもを言葉や暴力などで傷つけたり、食事の世話をせずに放置したりすることです。

子どもの心と体に深い傷を残し、心身の発達や人格の形成に好ましくない影響を及ぼすことから、未然に防ぐことが一番大切と言われています。

また、高齢者に対する虐待も連日、マスコミで報道されていますが、遠軽町における児童虐待、高齢者に対する虐待の現

答

平成21年6月に関係代表者による、遠軽町要保護児童対策地域協議会が設立され、必要に応じてケース検討会議を開催し、児童虐待への対応の迅速化が図られています。

遠軽町では、以前から保健師が全員を対象に、新生児、乳児の訪問を実施しており、90%以上の訪問で状況を把握しています。

母親の育児不安や孤立を防ぐ事業として、生後2カ月の赤ちゃんのいる家庭には「お変わりありませんかコール」を母子推進委員により行っています。

えんがるちようは
住みやすいまちだよ!!!



乳幼児検診や各種事業などで保護者や乳幼児と接する機会があることから、虐待という視点ではなく、育児支援という立場から孤立化や育児不安の軽減を図っていきます。

高齢者の虐待の現状につきましては、虐待と言

えるかどうかはわかりませんが、母親の年金を娘が勝手に使ったとの事例が一件ありました。

相談窓口としては、保健福祉課及び遠軽町社会福祉協議会に委託しており、地域包括支援センター、各在宅支援センターなどが相談に応じています。

今後とも、相談窓口の実と実態把握の強化に努めます。

再問

遠軽町に転入されて来た方でお子さんがいらっしゃる方には、遠軽町で子育て支援をしている事業内容などの詳しいパンフレットを作成し、新しい地で安心して子育て

答

現在は、転入者の方に健康カレンダーの配付を行っています。

子ども支援などの内容を含めたパンフレットを作るかどうかにつきましては、検討させていただきます。

町内の児童虐待の現状

年度	件数	内容	検討会議回数
平成20年度	1件	身体虐待	
平成21年度	3件	町外1件 身体虐待1件 ネグレスト1件	ケース検討会議 4回実施
平成22年度 (年度途中)	2件	身体虐待とネグレストの 両方1件 ネグレスト1件	ケース検討会議 3回実施 現在継続中も有り

ここが聞きたい!!

議員本人の原稿を尊重しています。

一般質問

高橋 義詔 議員



問

合宿誘致活動の充実を

答

交流人口の拡大を目指し今後とも推進する

問

遠軽町では以前より大会・合宿誘致を行っており、本町のスポーツ振興、また地域経済の活性化にも貢献していると感じています。

しかしながら、本年度の合宿等による来町状況ですが毎年訪れていたチームが合宿先を変更するなど、現在のところ大学や社会人チームの合宿は減少傾向です。

近隣市町村では首長を先頭に担当部課等を設置し、大会・合宿誘致を積極的に行い、スポーツ振興と地域活性化に大きく貢献しています。

本町でも合宿誘致委員会がその役割を担っています。



教育長

遠軽町ではこれまでスポーツ施設の充実を図ると共に、合宿誘致委員会と連携しながら

教育長

ますが、せっかく立派な体育施設もある訳ですから、より積極的に誘致活動ができるよう充実を図るべきと考えます。今後の取組は。

教育長

ら進め、多くの団体を受け入れることにより、スポーツ振興、交流人口拡大による活性化に大きく貢献してきたと考えます。しかし、ご指摘のとおり合宿による来町者は減少している状況です。

町長

合宿に関しましては経済効果や活性化、そして子供達への刺激等、とても効果があると考えますので力を注ぎたいと思います。

問 学校のグラウンド整備を
答 学校環境整備の中で検討する

問

本町の小中学校グラウンドは、以前より排水性が悪く、運動会や体育祭、体育授業等に支障をきたしており、今後、優先順位をつけながら計画的に整備する考えは。

今後とも関係団体と連携し、合宿誘致活動を推進していきます。

教育長

以前より、一部の学校を除きグラウンドの排水性が悪いとの改善要望があり、現地調査や関係部所から意見を聞くなど検討してきました。しかし、地形や土壌などに問題のある学校もあり、根本的な改修には多額の予算が必要ことから毎年、土の補充と整地等の整備で対応してきました。



今後の対応ですが、老朽化した校舍改修等の課題もあり、財源的にもグラウンド整備を優先的に取り組むことは難しいと考えますが、引き続き、校舍改修等の学校環境整備を検討する中で財政面を考慮し協議します。

ここが聞きたい!!

議員本人の原稿を尊重しています。

一般質問

山田 和夫 議員



問

雨宮21号の路線延長で観光振興を

答

費用対効果を含め検討

問 本町は、四町村が合併したことで観光資源も豊富になり、観光人口の流入増に期待をしていましたが、近年、その傾向は見られません。

9月14日には、申請中だった「白滝黒曜石遺跡群ジオパーク構想」が「黒曜石」を除く形で認定されたとの報道もあり、観光振興に少しの前進がありました。本町の観光産業の振興には「インパクトのある事業の展開」が必要だと考えます。

例えば、北海道遺産である「雨宮21号」を、丸瀬布市街地から上武利地区への路線を開設・運転することで、いこいの森公園やマウレ山荘、マウ

レミュージアムへの観光客の増加を促すほか、機関士を民間ボランティア

答 本町への観光客入込数は、合併時の平成17

（二級ボイラー技師免許所持者）化することの話題性、機関車改修費用や路線開設に伴う用地取得費用や路線敷設費用等は全国の「鉄道ファン等」に募金を呼びかけて捻出するなどの事業展開は、全国的にも例を見ないインパクトのある観光産業になるものと思います。

これは、本年3月の高規格旭川〜紋別自動車道が、道央圏から丸瀬布までつながったこと、白滝・丸瀬布の道の駅での町内観光施設のPRやトイレ等の改修による利便性の向上を図ったことが観光客の入込増につながったと考えています。

が、自国でオホーツク圏の観光を報道したことから、太陽の丘コスモス公園には東南アジアからの来園者が増加しています。質問のあった「雨宮21号」の路線拡大などは、非常にインパクトのある事業であると思います。

先日に認定された「ジオパーク構想」と「雨宮21号路線拡大」を、本町の観光産業の目玉としてこれを効果的に実行することが必要ではないかと考えます。

また、昨年、オホーツク総合振興局と共に実施した「海外メディア招聘事業」で、帰国した記者



雨宮21号

ご存知のとおり、雨宮21号は北海道遺産に登録され、永く動体保存しなければならぬSLです。しかも、小さな車体で運行してきていることからボイラー部や煙管部に無理をかけることが出来ないと考えており、路線の拡大や機関士の民間ボランティア化は、難しいと考えます。

ただ、提案のあった費用の捻出方法や、路線の市街地から上武利地区への開設などは、事業として非常にインパクトのあるものであることから、その方法なども含め、時間をかけて検討、研究してみたいと考えます。

ジオパークについては、黒曜石遺跡群だけでなく、生田原金山や丸瀬布地区の風穴、白滝支湧別川の断崖地層が地質公園にふさわしいものであることから、本町全体を一つの地質公園と位置付けて展開していくものと考えています。

ここが聞きたい!!

議員本人の原稿を尊重しています。

一般質問

岩澤 武征議員



問

「町民のための町政」実現は？

答

民生委員・児童委員とはより密な
関係を図っていく

問

地方自治法には「地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ることを基本として、自主的かつ総合的に実施する役割を広く担う。」と規定されています。

とても大切な役割を果たします。

この数年来、私が相談を受けた人の中には生活

の実態を詳しく聞かれることもなく、基準などの

説明もなく公営住宅や生活保護の申請ができな

った人達がいいます。そして、福祉行政に対する不

満や不信感を持つ人がお

ります。

一方、町内では民生委員・児童委員の皆さんが

各地域で活動しています

が、住民の福祉向上のため、関係する機関とは

員のみなさんとは、しつ

かり連携し協力して仕事

を進めることが大事だと

考えます。

次の2点について町長

の考えは。

一、町長の執行方針にあ

る「愛情あふれる真に町

民のための町政」は、福

祉行政に関して具体的に

どのように実現されてい

ますか。

二、福祉行政の中で、民

生委員はどのように位置

付けられていますか。

答

予算化されて実現

している施策もあります

検討し実現を目指す施策

もありますので、それら

の実現の中で、私の理想

とする「愛情あふれるま

ちづくり」を推進してい

きます。

本町においても民生委

員の方がそれぞれ担当の

地域の生活相談・助言を

献身的に行われており、

福祉、特に生活弱者の相

談業務の最前線におられ

る民生委員・児童委員の

方々のより円滑な活動を

進めていただけるようよ

り密な関係を図ります。

再問

生活保護の数に

は枠がありますか。

公営住宅、生活保護の

申請は基本的に受けると

いう姿勢で対応すべきで

す。

また、職員の聞き取り

の時の民生委員の同席は

どうですか。

福祉課長

生活保護の

枠はありません。

申請についてはそのと

おりです。

本人や家族が求めた人

の同席は拒否しません。

ここが聞きたい!!

議員本人の原稿を尊重しています。

一般質問

阿部 君枝 議員



問

子宮頸がん予防ワクチン接種の
公費助成を！

答

新年度に向けて検討していく

問

6月の定例会にお
いても、積極的に取組む
べきとの質問をさせて頂
きましたが、町長は、ワ
クチン助成の公費負担を
決断するためにも情報収
集などをし、検討するこ
とでしたが、どのよう
な情報を得られましたか。

答

すべての女性の80
%が一生のうちに感染す
るといわれており、この
ため、すべての性行動の
ある女性が子宮頸がんに
なる可能性があります。

答

実施率は全国で7
・3%、北海道で12・3
%であり、厚生労働省で
は23年度の予算概算要求
で市町村が実施する事業
等に要する費用の3分の
1相当を助成することが
検討されている状況です。

問

子宮頸がん予防ワ
クチン接種の公費助成を
行つべきと考えます。

答

国は接種を積極的
に推奨するものではなく、
ワクチン販売から間がな
く、

問

女性特有の子宮頸
がんを、どのように認識

問

国は接種を積極的
に推奨するものではなく、
ワクチン販売から間がな
く、

答

国は接種を積極的
に推奨するものではなく、
ワクチン販売から間がな
く、

問

国は接種を積極的
に推奨するものではなく、
ワクチン販売から間がな
く、

＜知見が少ないため、接
種事業を実施する市町村
を支援するとしています。

国や道の動向を見なが
ら、さらに検討をしてい
きます。

再問

他市町村におい
ても公費助成に向けて実
施の方向が増えていきます。
遠軽町でも実施するべき
です！

答

新年度に向けて検
討していきます。

問

児童虐待を防ぐに
は！

答

相談窓口の強化を図
る。

問

遠軽町における児
童虐待の実態は。

答

平成20年度は身体
虐待一件で、平成21年度
は3件で、内容は、ネグ
レクトとネグレクトおよ
び身体虐待。原因として
孤立や育児不安等ではな
く、親の代から続く家族
的な背景や育児能力問題
から起こっています。

問

地域連携体制の強
化は。

答

以前から強化体制
に力を入れていますが、
平成21年6月、各関係
機関の代表者による遠軽
町要保護児童対策地域協
議会を設立し、より法的
に強化しています。

問

遠軽町では母子保
健事業において昨年度か
ら実施をしています。

答

全国の市町村の
84・1%が生後4カ月児
までのすべての家庭を訪
問し、子育てに対するア
ドバイスをすることを事
業化しています。遠軽町
でも実施を。

問

虐待と思われる状
況を地域の人たちが偶然
見聞きした場合の対応に
ついては。

答

ポスター等では行
っており、通報について
は、かなり浸透していま
す。

問

乳幼児健診等において
パンフレット配布など、
引き続き相談窓口の案内
の強化を図っていきます。

ここが聞きたい!!

議員本人の原稿を尊重しています。

一般質問

杉本 信一 議員



問

全国学力学習状況調査の結果と
今後の対策は

答

本調査の結果を分析・検証し、学
力向上に取り組む

問

平成19年度から行
われている、文部科学省
による全国学力学習状況
調査（学力テスト）にお
いて、小学生では本年度
も北海道は全国で下から
二番目という結果に終わ
りました。

このような状況の中で
当町においては、今後ど
のような対応をとってい
きますか。

答

調査結果における
平均正解率では、本町は
一部（中学生の国語）で
全道平均を上回る結果も
ありましたが、それ以外
は全道平均を僅かに下回
る結果となりました。

今後の対策については、

9月の校長会議において、
本調査の結果をどう活か
すのか、今一度の検討を
指示したところです。

今後本調査の結果を
分析・検証し、明らかと
なった課題について、学
校と連携を図りながら、

児童生徒の学力向上に向
けて取り組んでいきます。

再問

現状の教育環境

の中で、一部ですがより
望むべき学習環境を求め
て町外の学校へ出て行く
傾向も見られます。

小・中学校の子供達は
一般的には学校も選べな
ければ、先生を選ぶこと

も出来ません。

地域の活力を取り戻す
ためには、地域にどれだ
けの「人財」を確保でき
るかと言うことも要因で
す。

子供達がしっかりとし
た学習レベルを身につけ、
地元の高校を卒業して目
標とする学校に行けるよ
うに、教育の質を上げて
いくことが急務と考えま
す。

そのために、教職員の
資質の向上と、教育委員
会と教職員が一体となっ
て子供達の向学心を上げ
る努力が必要です。

例えば、毎日宿題を出
して子供達が机に向かう

習慣を身に付けさせるこ
とにより、遠軽町の学校

全体の教育レベルを上げ
ることが出来たなら、こ
のオホーツク圏域の中で

の中心都市になることも
可能です。

答

これまでの4度に
わたる学力テスト、国語
・算数（数学）での結果
を過大に評価する傾向は
戒めなければいけないと
考えます。

小・中学校の児童生徒
にとつての学校は、基本
的には楽しく、たくさん
の仲間がいて、個人的な
関係を創る、あるいはコ
ミュニケーション能力を

高める場所であり、学力
テストの結果を必要以上
に悲観することは無いと
考えます。

これまでの調査での最
大の成果は、子供の学力
とは何か、身につけさせ
たい力とは何かというこ
とについて、教師も保護
者も地域住民も一緒に議
論できる機運が生まれて
きたことです。

多くの課題は、学校と
りわけ教師だけの手に負
えるものではありません。
当然家庭の理解・協力
を得なければなりません。
そういう意味で家庭学習
への取り組みも、保護者
を交えた話し合いの中で
出てくる話であって、安
易な考えに走って欲しく
ないと指摘をしました。
私も今後さらに足繁く
学校に足を運び、私の感
想を基に意見をさせてい
ただきたいと考えます。